令和４年度　山梨県教育委員会指定

休日部活動の地域移行に向けた実践研究事業報告

南アルプス市立八田中学校

１　本校の規模

	男子人数	女子人数	合計人数
１年	２７	２０	４７
２年	２９	２８	５７
３年	２９	２２	５１
合計	８５	７０	１５５

【職員数】
県費教諭 16 名(含養護教諭)
（うち再任用常勤２名）
市単講師　１名

果樹農園が広がる農村地帯に広がる本校は、平成の大合併以前は八田村立の中学校として小規模ながらも地域密着型の学校教育を大切にしてきた。

部活動にも力を入れてきた伝統があり、平成１９年には全国中学校駅伝大会で優勝した実績がある。

交通の便の良さから、近年は旧村外から流入してくる世帯が増えている。

一方で、少子化に伴う生徒数減少も進行し、チームスポーツにおいて、他校との合同チームを作らざるを得ない部が出はじめている。

（野球部、バレーボール部、新人戦ではサッカー部が合同チームを編成）

２　各部の部員数(カッコ内は兼部人数)

			男子部員数(R4)			女子部員数(R4)			部員数合計	顧問数
			１年	２年	３年	１年	２年	３年		
常設部	運動部	陸上部	８	５	９	３	０	４	２９	２
		野球部	３	０	４	０	０	０	７	２
		サッカー部	４	７	１２	０	０	０	２３	２
		女子ｿﾌﾄﾃﾆｽ部				５	５	８	１８	２
		男子ｿﾌﾄﾃﾆｽ部	６	１５	４				２５	２
		女子バレー部				０	４	０	４	２
	文化部	吹奏楽部	２	０	０	７	１１	４	２４	２
		創作部	４	０	０	５	５	４	１８	１
季節部	運動部	柔道部	(1)							1(兼務)
		水泳部			(1)			(2)		1(兼務)
合計(兼部除く)			２７	２７	２９	２０	２５	２０	１４８	

本校では、全員入部制をとっていないが、自己の内面に意識を向けさせ、自己実現力を高めるきっかけを作ると同時に、「生徒による自主的な活動」を組織し、精神的な成長、技術の向上に向かわせるために、何らかの部活に入ることを推奨している。(週３回以上の活動があり、学校の部活動と同様に本人が頑張って活動できるものがある場合は、無所属も可としている。)

顧問については、県費常勤の教諭が複数顧問制で担当している。

３　実践研究体制

	年度	陸上部	野球部	女子ｿﾌﾄﾃﾆｽ部
部員数	Ｒ３年度	２３名	７名	１９名
	Ｒ４年度	２９名	７名	１８名
顧問数 ○:指導経験あり ×:指導経験なし	Ｒ３年度	３名 ×××	１名 ○	２名 ○×
	Ｒ４年度	２名 ○×	２名 ○○	２名 ××
地域活動指導者 指導歴等	Ｒ３年度 Ｒ４年度	鈴木　正一 (66) (元中学教員) 指導歴 41 年	田鹿　欣孝 (43) (野球部顧問) 兼職兼業	浅野　茂 (49) (元中学教員) 指導歴 21 年

陸上部、野球部、女子ｿﾌﾄﾃﾆｽ部の３つの部で地域指導者を招聘し、研究実践をすすめた。

顧問の欄の○×は、先生方それぞれの指導経験を表している。

陸上部の指導者とｿﾌﾄﾃﾆｽ部の指導者は八田中学区に住んでいる元中学教員で保健体育科の免許を持っている。そのため、部活動の教育的な価値や目標を十分に理解し、技術指導だけでなく、あいさつや用具の整理整頓等についても指導していただくことができた。

また、指導経験のない顧問に対しても、指導方法の教授にとどまらず、部員の意欲を高める方法や、部員を見取る視点などを指導していただくことができた。

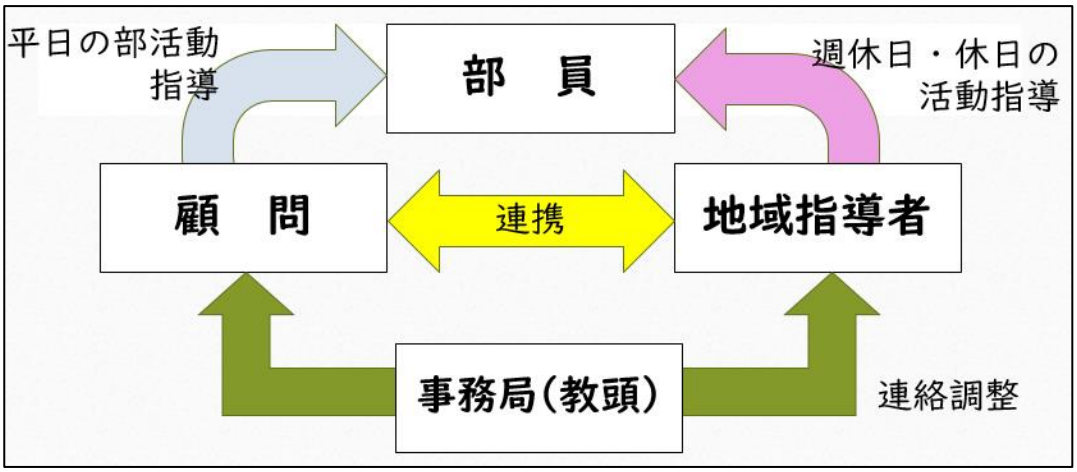
野球部については、Ｒ３、Ｒ４ともに部員数が少なかったため、合同チームを編成する中で休日活動を行い、本校職員が兼業申請を出して指導した。

（Ｒ３年度は白根巨摩中・白根御勅使中と合同）

（Ｒ４年度は白根御勅使中・若草中・甲西中と合同）

４　実践研究

（１）運営体制



平日の指導を顧問が、週休日や休日の指導を地域指導者が中心となって指導した。

地域指導者が全ての休日活動に来られなかったり、教育経験者とはいえ、生徒との関係が十分でなかったりしたため、休日活動では地域指導者と顧問が協力して行った。

お互いに連絡を取り合い、連携を深めるための連絡調整役として、教頭が兼職兼業して事務局を務めた。

年度当初は、練習計画の取次や指導に来られる日の調整を事務局で行ったが、慣れてくるにつれ、顧問と指導者が自分たちで連絡を取り合い、活動を進めることが多くなった。

（２）事業をすすめるにあたっての留意点（職員に確認した内容）

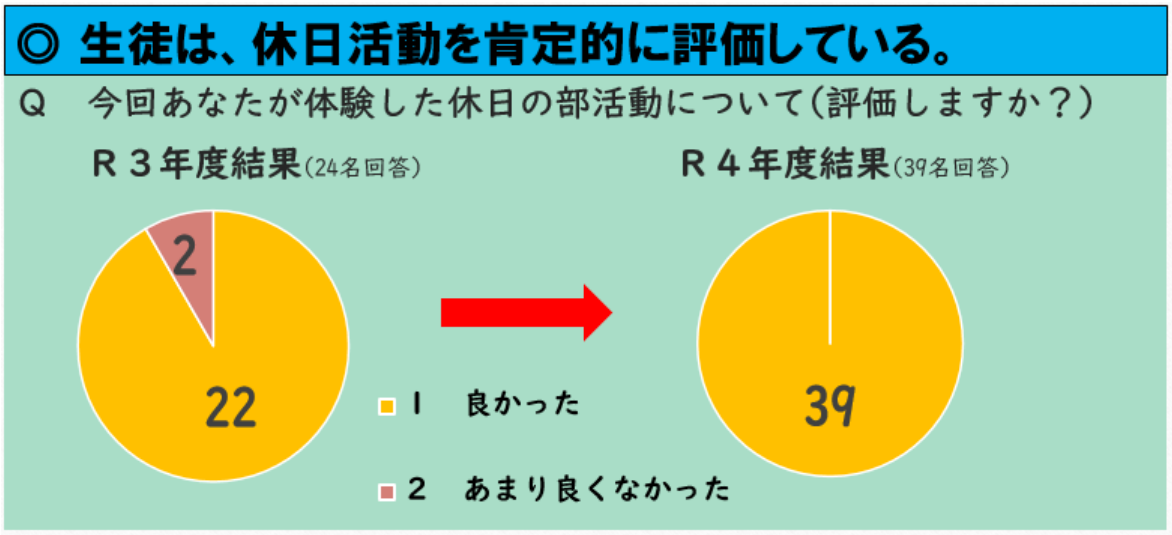
事業をすすめるにあたって、学校職員には次の内容を確認した。

① 部活動において、地域の教育人材を活用することで、生徒への専門的な指導をお願いし、教員の部活動への負担を軽減する。
② あくまでも部活動の延長として休日活動を行う（顧問が主導権をもって指導にあたる）という認識を持ち、土日の部活動を丸投げしない。（顧問と地域指導者が緊密に連絡を取り合い、共通理解や共通確認を行ったうえで、指導にあたる。）
③ 休日活動においては、当面は顧問も最低１名は参加するが、将来的には、地域指導者に全面的に任せる日もあってもよい。（平日の部活動は、学校の管理下になるので、顧問が必ずつく。）
④ 顧問と地域指導者との連携を円滑に進めるため、事務局員を置く。当面、事務局員は教頭が担当する（兼職兼業）
⑤ 地域活動の練習日数は、部活動の練習日数と合わせてカウントし、部活動ガイドラインの上限日数を超えないようにする。（練習試合等特別な場合を除き、1回あたりの練習時間も、同ガイドラインに準じる。）

部員と地域指導者の信頼関係が確立したところで、地域指導者のみに指導を任せる日があってもよいこととしたが、地域指導者から、「顧問の先生をぜひつけてほしい」との要望が多く、結果的には、ほとんどの活動日で最低１名は顧問が付き添う形となった。

５　成果と課題

２年間の研究の間に、生徒、保護者、地域指導者、顧問を対象に、２回のアンケートを行った。



まず、生徒を対象に行ったアンケートでは、ほぼ全員の生徒が、休日活動を肯定的に評価しているという結果となった。昨年度よりも本年度のほうが、その傾向は顕著に表れている。

○休日活動の地域移行を肯定的に評価する理由（生徒の意見）

- 専門的な練習ができてよかった。
- 普段教えてもらえないことを教えてもらえた。
- とても分かりやすく指導してもらえた。
- 技術（記録）が目に見えて向上した。
- いろいろな先生から指導してもらえてよかった。
- 学校の先生だけではなく、外部の指導者がいることで緊張感のある練習を行うことができてよかった。
- 指導者も環境も大きく変わらず、練習ができた。（野球）
- 違う学校の生徒と切磋琢磨できた。（野球：合同活動）

●休日活動の地域移行に対する不安（生徒の不安）

- 指導者とコミュニケーションがとれるかが不安。
- （学校をまたいだ活動の場合）他校の部員と話せるか不安。
- ライバルが多くなると不安。（競争に負けるのではないか）
- ケンカとかが起きそう。

休日活動に対する不安の声も少数ながらあった。こちらは、環境の変化に起因する問題であると考えられ、時間とともに解消することが見込まれる。

◎ 顧問は休日活動を概ね肯定的に評価しているが、地域移行に対する不安も多い。

顧問の先生方は、ほぼすべての先生方が休日活動を肯定的に評価した。

メリットとして、技術が学べたことや、合同活動により、少ない部員での練習が解消されたことなどが挙げられている。

一方で、顧問の先生方は地域移行の今後に対して、大きな不安を抱えている。

具体的には、教員の多忙が軽減されるのかといったことに懐疑的な意見や、専門性のない顧問が専門性のある地域指導者を主導できるのかといった心配、人材確保の問題や、部活動が目指す教育的な指導が可能であるのかといった制度自体に対する不安や外部人材が入ることによる情報共有や人間関係作りの補助について、不安の声が挙がった。

○休日活動の地域移行に対する肯定的な意見（顧問の意見）

- 指導経験のない自分にとっては、専門家の指導を間近で見て学べる貴重な機会となった。
- 少人数の団体チームにとって、他校と合同で活動できることは、大変有効である。
- 多忙が解消されることを期待したい。
- （兼職兼業をすることで）学校での様子や家庭での様子について、保護者や生徒と共通理解をはかりながら活動できた。

●休日活動の地域移行に対する不安（顧問の不安）

【職員の負担に対する不安】

- 「教職員の働き方改革」に対する課題の解消への効果があったかということに関しては不安な部分が残った。（打ち合わせや、安全対策のために休日に顧問が活動に従事することが多く、負担減にならないこともあった。）
- 部活動に従事する時間が減って、働き方改革につながれば良いが、土日も変わらず指導につく中、かえって地域指導者との連絡調整、情報共有に要する時間が増え、多忙化するのではないか？
- 地域指導者からの急な要求、難しい要求が多く、負担を感じることがあった。（顧問が新人、地域指導者が古参）

【その他の不安】

- 体制整備（教育活動に適した人材確保、必要な人材が集まるだけの十分な対価が支払われるのか）が心配。
- 兼務を希望する教員がどれだけいるのか、足りなければどうなるのか。
  教育的な指導（例えば生徒指導的な部分）に関して、指導者と上手く共有できない部分があった。
- 地域指導者と部員の人間関係作りがうまくいかないことがあった。
  指導体制が変わらないので、指導がマンネリ化してしまうことがあった。
  （兼職兼業のデメリット）

◎ 地域指導者は、休日活動を肯定的に評価（100％）しているが、地域移行に対する不安も多い。

地域指導者からは、休日活動の成果や必要性を理解し、全員から肯定的な評価をいただいた。

一方で、休日に一人で指導することへの不安、（安全面への不安や教育的指導に対する不安）、顧問との連携の不安、保護者対応への不安などが挙げられた。

○休日活動の地域移行に対する肯定的な意見（地域指導者の意見）

・当初よりも、礼儀正しくなり、態度も良くなった。
・先生方に対して、多少の時間的な負担経験とアドバイスができた。
・部活動の必要性を感じている先生方にとって、兼務できる体制は必要。
・教員の働き方改革のために、子どもたちが犠牲になることがあっては本末転倒。しかし、今後必要なしくみであるということは、理解している。

●休日活動の地域移行に対する不安（地域指導者の不安）

【指導上、安全上の不安】
・運動にはケガがつきものであるが、もしもの場合、地域指導者一人では対応が不十分になる可能性がある。生徒指導面においても、日頃から生徒の様子を見ている教員がいたほうが助かる。少なくとも学校職員が１名つくことが望ましい。

【顧問との連携に対する不安】
・どのように連絡を取り合い、効果があげられるか検討の機会が必要。

【保護者負担に伴う不安】
・保護者が費用負担するようになると、保護者のニーズに応える活動をするよう要求されないか心配。保護者の価値観も様々なので、勝つための練習を望む保護者と、そうでない保護者が出てきた場合、どうするか。

◎ 保護者は、地域移行の必要性を理解してはいるものの、負担面や安全面等で不安を抱えている。

保護者についても、概ね好評価をいただいた。地域移行の必要性を理解してはいるものの、今後生じるであろう様々な問題に対して、多くの不安の声が寄せられた。

恐らく、地域移行に対して一番不安を抱えているのは、保護者だと思われる。

保護者の送迎や見守りといった、物理的な負担が増すことを心配する声や、新たな費用負担が生じることへの不安が多く挙げられた。

保護者からは、費用負担を心配する意見が最も多かった。安全面や、責任の所在を不安視する声も多く挙げられた。

○休日活動の地域移行に対する肯定的な意見（保護者の意見）

・（学校をまたいだ活動は）子どもの視野が広がり、刺激にもなる。
・学校外の大人と関わりがあることは、視野が広がり、刺激にもなる。
・他校に友達ができたことが一番のメリットだった。
・先生方の負担減や、地域の活性化としては、良いことだと思う。
・子どもたちが選択できる種目が増えることはよい。
・個人的には、習い事だと思えば、子どもが取り組みたいことにお金を払うことに負担も不満もない。

●休日活動の地域移行に対する不安（保護者の不安）

【物理的負担が増える不安】

・活動場所が自宅から遠いときに送迎ができない場合の対応が困る。
・土日が休みではない保護者にとっての送迎は、とても大変。
・送迎が必要なら、活動計画について少なくとも３か月前に教えてほしい。
・子供たちが自分で移動できない場所での活動については、バスを出していただけるとありがたい。（利用する保護者で費用を負担する等でも良いので、検討して頂きたい。）
・スポ少のように、送迎当番や見守り当番など、保護者が何らかの当番をしなければならなくなるのが不安。

【費用負担の不安】

・部活動は教育活動の一環であり、特別なお金を出して活動しなければならないものではない。全ての子供が平等に活動できるものにしてほしい。
・外部委託して、新たな費用負担をしてまで休日に部活動をやる必要があるのか、疑問。
義務教育の一環として参加料や保険料は国や自治体が出すのが望ましい。
・費用負担が増えることにより、参加できない（活動を諦めざるを得ない）生徒が増えることが心配。
・どれくらいの費用負担となるのか、心配。
・多少の負担は仕方がないと思うが、クラブチームと同じようになるのであれば、人数が減ってしまうのではないかと思う。
・すべての部活動が移行するのか、負担額はみな同じなのか等が気になる。

【その他の不安】

・新しいスポーツに挑戦したり、人間関係を学んだりする場としての部活動の良さがわれ、クラブチームのようになっていくことが心配。
・顧問（学校の先生）がいない状況での活動は、不安。
・学校の先生ではない専門家がお金を取って指導するなら、それなりの練習（指導）を望みます。
・学校以外の場所への移動（自転車など）が心配。
・指導上の言動や問題が発生した場合の責任の所在が心配。
・休日活動に行っても、霜が溶けて実質上の練習がわずかしかできないことがあった。設備面が整わなければ、貴重な指導をいただく機会が無駄になる。

６　実践研究のまとめ

○ 休日部活動の地域移行…生徒、地域指導者、教師、、
活動に関わるすべての人々が肯定的に捉えている。

○ 学校をまたいだ活動にすることは、少子化、部員不足を解決するのに役立つ。
（持続可能な活動につながる）

○ 専門的で的確な指導を受けられる点も、地域活動の効果は大きい。

△ 教員の多忙化解消への効果は、未知数。

● 地域移行に対する不安や心配が多い。（今後の制度構築が最大の懸案事項）
（なり手の問題、保護者負担の問題、安全管理の問題、教育的指導の問題）

地域や保護者・子どものニーズ、学校でできること、行政でできること等をすり合わせ、持続可能な運営体制を模索する場（会合）を定期的に持つことが必要。（その地域の運営単位に合わせ、学校単位やブロック単位で。）

本校の休日活動については、３つの部すべてで、幸いにも教員経験があり、指導経験が豊富で、学区内に在住・在勤する適任者を地域指導者として招聘することができたため、文字通り、地域に密着した活動ができた。保護者の中にも、かつて地域指導者に教わったという方もおり、部員からも保護者からも高い信頼と評価を得ることができた。

その結果、生徒、保護者、教員、地域指導者と、活動にかかわるすべての人々が地域移行を肯定的に捉える結果となった。

理由としては、

① 少子化や部員減少を解消し、持続可能な活動としていくのに効果が大きい。
② 専門的で的確な指導を受けられる。
③ 学校外の人間がかかわることで、子供の視野が広がる。

などのメリットが挙げられた。

一方で、教員の働き方改革に直結するかどうかは未知数であることや、地域移行することによって生じる物理的、経済的負担や安全面での課題があることなどの課題点を指摘する声が多く挙げられた。

これらの課題を解決し、抱えている不安を解消していくためには、地域や保護者のニーズ、学校でできること、行政でできることをすり合わせ、持続可能な運営体制を模索する場(会合)を定期的に持つことが必要だと考える。

コミュニティースクールである本校では今年度、学校運営協議会に諮って「融合型部活動運営検討委員会」を立ち上げ、持続可能な活動とするための運営組織の在り方を学校独自に探ろうと試みた。

１０月の学校運営協議会の中で、地域移行の概要と状況について説明を行ったが、委員からは、「すべての部の指導者を地域内から確保するのは難しい。」「費用負担についても、学校単独では保護者に多額の負担を強いなければ成り立たない。」「学校単独では成立しない部もあるので、近隣の学校と合同で活動することを考える必要がある。」など、本校単独で地域移行を進める難しさを指摘する声が挙げられた。

そのような中で、市教育委員会を中心に地域移行の検討を進めることとなったため、当面は推移を見守ることとした。

南アルプス市教育委員会では、これまで挙げてきた課題を共有しつつ地域移行の準備を進めてくださっているため、今後は、指導者の確保、保護者の費用負担の軽減、他校との合同活動等を中心に検討し、制度構築されることを期待したい。

本校としては、アンケート結果にもあったように、生徒は地域移行をとても高く評価しているため、今後も市教委の動向を見ながらこれまでの取組をできる範囲で継続していきたいと考えている。